

成人期の小児期発症慢性疾患患者の現状

- 医療の進歩により小児期発症慢性疾患患者の多くが成人期を迎えるようになりました。
- その多くは原疾患や後遺症・合併症などに対する継続的治療を必要としています。
- ライフイベントや成人期特有の病態変化が出現するなど、必要な医療が変化していく患者に対し、成人後も小児診療科だけで診続けることは、最良の医療を提供出来ていないとも言いきれません。

小児期発症慢性疾患患者の成人移行の課題

- 小児期は医療の主体が患者よりも家族にあり、本人が意思決定を行うことは多くありません。その結果、病名や病歴を十分に理解できていないまま、成人期を迎える患者さんもいます。
 - ライフステージに合った方法で、疾患理解に向けた支援や診療スタイルの変更など、医療の自立に向けた支援を診断早期から継続的に行う必要があります。
- 小児期発症慢性疾患をもつ患者を診療出来る医療機関の情報がない。
 - 医療機関への現状調査を行い、地域に根差した研修会や移行前カンファレンスの開催など、顔の見える医療連携の強化を行う必要があります。

大阪府移行期医療支援センターの活動

啓発活動

「大阪における移行期医療を考える」研修会を疾患別に開催しています。

これまで先天性心疾患、ダウン症、小児がん、小児外科疾患等をテーマに移行期の課題について検討しています。



現状調査

小児診療科・成人診療科に対し、移行支援に関する現状調査を行いました。成人診療科と小児診療科の連携における課題や対策等について結果を公表しています。



相談業務

医療機関向けに、移行期医療を円滑に進めるための相談を受け付けております。移行支援の進め方や成人診療科との連携など、成人移行支援でお困りのことがありましたら、ホームページ相談フォームからご相談下さい。



医療機関の方へ

大阪府移行期医療支援センター



〒594-1101
大阪府和泉市室堂町 840
大阪母子医療センター 患者支援センター内
大阪府移行期医療支援センター
TEL: 0725-55-3113(直通)



Mail: ikoukishien@wch.opho.jp
HP: <https://ikoukishien.com/>

2023 年3月作成



移行(トランジション)とは

小児期医療から成人期医療へと、患者一人一人に合った形で、医療形態を移していく過程(プロセス)を **移行** といいます。

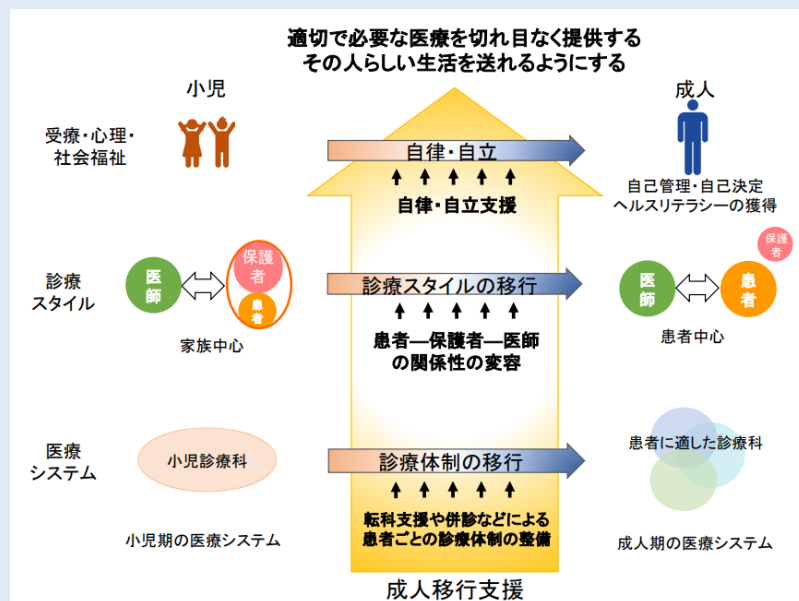
成人期医療との繋がり、患者が本来の持てる能力や機能を最大限に発揮出来、その人らしい生活を送るうえで大切です。

移行期医療支援センターより

スムーズな成人移行を行う上で、患者さんへの自律・自立支援は重要です。小児期発症慢性疾患患者の中には、自身の疾患を十分に理解しないまま成人される方もいます。ライフステージに合わせ、継続した自律・自立支援を行うことが大切です。また多くの患者さんは、身体的・精神的に未熟な時期を疾患と共に過ごします。患者さんの小児期から続くこれまでの経過にも配慮した診察や家族へのサポートなどを通して、患者・家族が安心して成人移行出来るよう、小児科・成人科双方の顔の見える連携を支援します。



小児期医療と成人期医療の違い と 違いを乗り越える為に必要な支援 (成人移行支援)



成人移行支援の概念図トランジション(移行)は「小児期発症の慢性疾患を持つ患者が小児を対象としたヘルスケアから成人を対象とするヘルスケアへ切れ目なく移る計画的、継続的、包括的な患者中心のプロセス」を意味し、3本の横矢印で示した①自律・自立、②診療スタイルの移行、③診療体制の移行が柱となる。成人移行支援はトランジションのための支援で、適切に必要な医療を切れ目なく提供することやその人らしい生活を送れることを目的とし、自律・自立支援、転科支援や併診などによる診療体制の整備が含まれる。自律・自立支援には、自己管理・自己決定・ヘルスリテラシー獲得のための支援や、就労・就学支援が含まれる

日本小児科学会ホームページ 移行支援に関する提言作成ワーキンググループ
小児期発症慢性疾患の有する患者の成人移行支援を推進するための提言 成人移行支援の概念図

1. 患者自身への自律・自立支援

将来の見通しを持って、自分らしく生きていくための支援、疾患や必要な制度の説明や心理面のサポート、ヘルスリテラシー※1の確立 など

2. 診療スタイルの移行

医療の主体を家族から患者本人に移すことを目指した教育的支援 など

3. 診療体制の移行

医療の継続のための診療体制整備・連携体制の構築(TC※2との連携)、役割分担を明確化し、患者ごとに異なる診療体制の整備 など

ヘルスリテラシー※1: 患者さんが自ら健康や医療に関する情報を探したり、活用したりする能力のことです。①自分にとってより良い医療は何かを理解し、②次を取る行動を判断し、③選択する力を確立し、④小児期から成人期へ切れ目なく医療を継続させながら、⑤病気をもっていても、社会の中で、その人らしく生きることが出来るように支援する「自律・自立支援」が重要で、常に患者さんの意思及び自己決定が尊重されることが重要です。

TC※2(transition champion): 思春期・若年成人期の課題を理解し、発達や病状に応じて適切な支援が可能な医療者(チーム)